

預算要求資料

令和8年度9月補正予算

支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：環境管理推進費

事業名 射撃場整備事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

ギ一生活部 自然環境課 生物多様性係 電話番号：058-272-1111(内2921)

E-mail : c11269@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 53 千円 (現計予算額: 4,082 千円)

＜財源内訳＞

[illegible]

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

カワウやニホンジカ等の野生鳥獣による農林水産業被害の増加や、ツキノワグマの人家周辺への出没等により、鳥獣捕獲（特に銃による捕獲）の重要性が高まる一方、県内の射撃場は施設の老朽化や鉛対策問題といった様々な問題を抱えている。

また、平成21年度の銃砲刀剣類所持等取締法の改正により、猟銃所持許可の新規・更新申請をする際は教習射撃場で行う射撃講習を受講することが義務付けられたため、射撃場の需要はますます高まっている。

(2) 事業内容

銃による捕獲の安全性及び技能の向上のためには射撃技術の向上が不可欠であり、（一社）岐阜県猟友会等が行う既存の射撃場の整備に要する経費の一部を補助することで、効果的な射撃練習を実施できる環境を確保する。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・射撃場の整備は有害鳥獣捕獲及び狩猟の適正化の推進に資するものであり、それらは県の責務である。
- ・補助率は事業費の1／2以内
- ・財源は国庫支出金を活用（鳥獣被害防止総合対策交付金、交付率1／2以内）

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	53	射撃場の整備に対する補助金
合計	53	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 後年度の財政負担

射撃技術の維持向上のため、継続実施が必要。

県 単 独 補 助 金 事 業 評 価 調 書

☐ 新 規 要 求 事 業
☒ 継 続 要 求 事 業

(事業内容)

補助事業名	射撃場整備事業費補助金
補助事業者（団体）	一般社団法人 岐阜県猟友会 （理由）県内8射撃場の管理はすべて（一社）岐阜県猟友会の構成団体が担っているため。
補助事業の概要	（目的）適正かつ安全な有害鳥獣捕獲及び狩猟の実施のため、効果的な射撃練習が行える環境を整える。 （内容）県内8射撃場の整備に要する経費の一部を助成する。
補助率・補助単価等	定額・ <u>定率</u> ・その他（例：人件費相当額） （内容）事業費の1／2以内 （理由）事業主体の自己負担金、岐阜県猟友会の補助とあわせ、県の負担割合を勘案した結果。
補助効果	銃猟免許所持者が効果的かつ安全に射撃練習ができる態勢を整備することで、適正な鳥獣捕獲が行われ、農林被害等を減少させることができる。
終期の設定	周期 令和9年度 （理由）「清流の国ぎふ」創生総合戦略による

(事業目標)

・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか 狩猟者を確保するとともに、銃猟の安全性及び技術の向上を図ることで、資質の高い捕獲従事者を確保し、有害鳥獣捕獲の適正な実施による農林水産業被害の軽減及び適正な狩猟を推進する体制を整える。
--

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①射撃場整備件数 (実数)	7	7	8	8	8	100%

補助金交付実績 (単位：千円)	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	1, 771	3, 371	2, 262	4, 538

(これまでの取組内容と成果)

令和5年度	- 事業の取組内容 郡上総合射撃場の整備に要する経費の一部を助成した。 - 得られた事業の成果 安全かつ効果的な射撃練習ができる環境が整えられた。
	指標① 目標：8 実績：7 達成率：88 %
令和6年度	- 事業の取組内容 揖斐教習射撃場及び関国際教習射撃場の整備に要する経費の一部を助成した。 - 得られた事業の成果 安全かつ効果的な射撃練習ができる環境が整えられた。
	指標① 目標：8 実績：7 達成率：88 %
令和7年度	令和9年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

(事業の評価)

事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	鳥獣捕獲に従事する者の射撃技能の維持向上のための拠点整備に助成することは、公益性が高い。
事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50～100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価) 2	効果的かつ安全に射撃練習を実施できる環境が維持されたことにより、適正な有害鳥獣捕獲及び狩猟が行われ、農林業被害をもたらす有害鳥獣の個体数低減に貢献した。
事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	射撃場施設の整備に要する経費を対象とし、1/2以内かつ予算の範囲内で、優先度の高いものから毎年1～2か所実施している。

(今後の課題)

事業が直面する課題や改善が必要な事項 現在、狩猟者の高齢化が進行(60歳以上の割合：55.3%(R5末))している。また、狩猟者全体に占める第一種銃猟免許所持者は減少傾向(H元末：82%→R5末：32%)にある。 資質の高い鳥獣捕獲従事者を確保するためには、若年者を対象として後継者を育成する事業展開が必要である。	
---	--